

I 実践

1 研究主題

「一人一人を大切にし、互いに認め合う人間性豊かな生徒の育成」

2 主題設定の理由

本校では「一人一人の生徒に人間の尊さについての自覚をもたせ、互いに大切にしよう生徒を育てる」、「自ら判断する力を養い、物事を正しく捉え、正しい判断のもとに行動できる生徒を育てる」、「互いの人権を尊重し合い、望ましい人間関係づくりに努める生徒を育てる」の3点を目標として人権教育を推進している。

本校の生徒は同一小学校からの進学であり、お互いのことをよく知っている。そのため、生徒の仲は全体的に見ると良い方だと言える。しかし、そのような環境の中でも友人関係への不安を背景として登校が難しくなってしまう生徒も存在することは事実であり、大きな課題である。

本校では平成24年9月に生徒間の心ない言動に問題意識をもった当時の1年生が中心となり、「いじめ撲滅委員会」という組織が結成された。（以下、通称のIBIと記す）IBIはまさに、本校の研究主題である「一人一人を大切にし、互いに認め合う」学校の雰囲気づくりを目指して活動しており、本校の人権教育活動の基盤の1つである。学校の雰囲気を良くするための取組は本校の伝統として今もなお受け継がれており、当時の生徒が卒業した現在は各学級の役員がIBI委員となり年間を通して活動を続けている。このIBIの活動を始めた各委員会や学校行事における教育活動を通して、「一人一人を大切にし、互いに認め合う人間性豊かな生徒」を育成することは、前述した課題の解決にも繋がると考え、この主題を設定した。

3 研究の内容

- (1) IBIを含む全委員会活動を通して、ボランティアの精神や他者を思いやる心を育てる。
- (2) 道徳の授業を通して人権意識を高める。
- (3) 生徒の主体的な活動を通して、人間関係を深める。
- (4) 外部講師の講演を通じて、人権に関する情報や知識を得る。

4 実践内容

(1) 委員会活動

ア IBI委員による「あいさつ運動」

毎週月曜日に正門の前に立ち、登校した生徒一人一人に対してあいさつをすることで、さわやかな学校の雰囲気づくりと生徒一人一人の自己存在感が高揚する活動を行っている。

イ IBIでの各学級の様子を話し合う定例会

各クラスの様子を報告することで、学級の姿に客観的な目を向け、問題の有無やその原因と改善点を話し合う場を設けている。解決に向けた取組を具体化して学級へ還元することで安心して生活できる雰囲気づくりを行っている。

ウ JRC委員会による募金活動

災害義援金や赤い羽根募金への呼びかけを行うことで、学校の外に向けた思いやりの輪を広げる活動を行っている。

(2) 道徳の授業の充実

ア 学年一斉の時間割編成

(3) ボランティア活動への参加

ア 「さわやかマナーアップ運動」への参加

IBI委員の生徒と小学生合同で、坂本小学校付近と本校前で地域に向けて朝のあいさつ運動を行った。

イ 人権に関する作文や標語への応募

(4) 外部講師による特別授業

ア 情報モラル教室

NTTドコモより講師を招き、ケータイやインターネットを利用する際のルールやマナー、トラブルの対処法などを実際に起こった事件事例をもとに講演をいただいた。画面の向こう側にいる相手に対する言葉の配慮などを具体的に知ることができた。



IBI あいさつ運動



さわやかマナーアップ運動



情報モラル教室

(5) 成果

- ・IBIの定例会において、生徒の視点による各学級の現状や課題について話し合い、必要に応じて教師が指導にあたることで、問題を早期に解決することができた。
- ・IBIの活動によって、いじめが起こりにくく、何かあった時には相談しやすい学校の雰囲気づくりを行うことができた。
- ・「さわやかマナーアップ運動」では、昨年度より人数を制限したものの、小学生と連携してさわやかにあいさつ運動を行うことができた。
- ・外部講師による講演を通して、より説得力をもって、具体的な注意点を知らせることができた。

II 今後の課題

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、昨年度まで行っていたハイタッチデーや、体育祭での敬老種目、地域でのボランティア参加を断念することとなったが、学校行事や委員会活動など、全体での活動の充実は図ることができた。しかし、学級経営における教師と生徒の人権意識の向上や、各教科や道徳の授業における人権教育の充実には更なる努力が求められる。校内研修や資料の配付を定期的に行うなど、常に研修の充実に努めていきたい。

また、IBIの活動については生徒や担当者が変わっても、実態に応じて柔軟に変化し、目的とした活動が行えるよう、記録や引継ぎをしっかりと行うことで、よい伝統を残し、発展させていくことが今後の課題である。特に今年度は世界情勢から活動にかなり制限を伴ったため、新型コロナウイルス収束後に以前と同じような多彩な活動を行っていくためにも、活動内容の記録と共有が重要であると考えます。